

仙台湾におけるダイオキシン類の動態把握

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-11-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 奥村, 裕 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2012415

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



仙台湾におけるダイオキシン類の動態把握

海区水産業研究部

研究の背景・目的

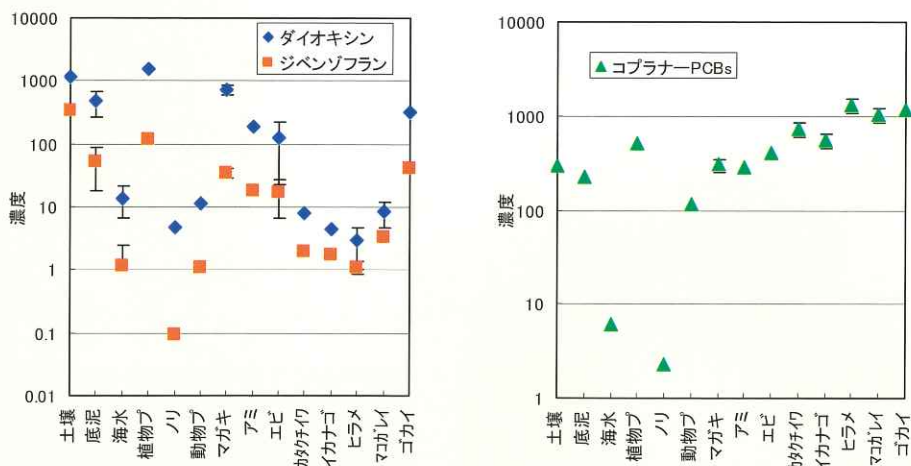
1. 仙台湾の生態系におけるダイオキシン類の動態・収支の把握

研究成果

1. ダイオキシンとジベンゾフラン濃度は食物連鎖の食段階が高い生物ほど低く、コプラナーPCBs濃度はその逆の傾向（図1）
2. 仙台湾では農薬の不純物起源のダイオキシン類が多く、河川から流入するダイオキシン類は魚介類へほとんど蓄積せず、大部分湾外へ流出（表1）

波及効果

1. 有害化学物質の環境への排出基準策定の基礎知見



単位:土壌、底泥 pg/g-dry、海水 pg/L、植ブ pg/L、その他 pg/g-wet

図1 仙台湾で採取した試料中のダイオキシン類濃度

表1. 1,3,6,8- と 1,3,7,9-T₄CDD の仙台湾における収支試算

	総量	割合	
一級河川から仙台湾へ	4700 g/年		①
仙台湾底泥への堆積	970 g/年	≒21 %	②/(①x100) ②
有用魚介類への蓄積	13 g/年	<0.3 %	③/(①x100) ③
仙台湾外への流出(①-②-③)	3700 g/年	≒79 %	④/(①x100) ④